97 ポール・コルニュ序 『ギャルリー・デ・モード』 1778年から1787年までの写生によるフランス・モードと服装の図集，M・ポール・コルニュによる序文付き翻刻版　全4巻　1912年

Cornu, M. Paul (préface)　**Galerie des modes et costumes français** dessinés d'après nature 1778—1787, réimpression accompagnée d'une préface par M. Paul Cornu. 4 vols. Paris, Emile Lévy, 1912. 40.0×30.0cm 〈383. 135-C-1～4〉
Hiler p. 351　Colas 1158, 1169　Lipp. 1129

フランス革命の10年ばかり前のこと，パリの二人の若い版画屋エスノー（Jacques Esnauts）とラピイ（Michel Rapilly）は彩色を施したモード版画集の発刊を思い立った。当時はまだフランスでも，独立したモード誌は刊行されておらず，わずかにロンドンで『ザ・レディズ・マガジン』(**96**)があるだけで，それにもまだ彩色は施されていなかった。15世紀後半以来の伝統に培われた西洋の銅版印刷も，色刷りとなると話は全く別で，それは当然，手彩色によらざるを得なかった。事実，当時のファッション・プレートで彩色がなされていたとすれば，それは大抵買った人の好みによってなされたものであった。だからエスノーらの試みは，いかに大胆で野心的なものだったかが分かる。『ギャルリー・デ・モード』の初版は1778年，24枚程を単位として刊行されたが，決して定期刊行とはいえなかった。こうしてこの版画集は1787年をもって廃刊となるが，その間何枚で完揃なのかは明らかでない。推定では450枚位とされ，フランスの図書館でもあちこちに分在しているのが実情である。

こうして,『ギャルリー・デ・モード』の元版は，すでに美術品の系列にはいっていて，生のままで今日の私たちの目に触れることは希有であるが，幸い本館には Collection d'habillement modernes et galants 〈383. 135-C〉 のタイトルのもとに元版の253枚（259図）が保存されている。本書はそのみごとな翻刻版で，元版の調子をできるだけ忠実に再現しているところから，今ではこの翻刻版自体が巨額の高値を呼んでいる。というのも，『ギャルリー・デ・モード』は，厳密にいってモード誌ではないが，モード誌的先駆的な役割りを果したばかりでなく，ロココ終末期に当たるルイ16世時代を飾る繊細甘美な服飾芸術の極致を現す華麗な絵巻として，服飾史上でも重要な位置を占めているからである。

本書の元版でのタイトルは Gallerie des modes……1778—1787, Gravés par les plus célébres artistes de ce genre, et colorés avec le plus grand soin par Madame Le Beau, つまり『最も有名な作家たちによって版刻され，ルボー夫人の最も入念な彩色の施された』という副題がついている。

これらの著名な作家には，デレ (Claude Louis Desrais), ルクレール (Pierre Thomas Leclère), ヴァートー (François Louis Joseph Watteau)，サン・トーバン (Augustin de Saint-Aubin) などの錚々(そうそう)たる画家や版画家たちがいて，本書には325枚の代表的作品が収められてい

る。ルボー夫人の手彩色はまたプレートの価値を高める極めて重要な伴奏ともなっている。

ロココの情趣を支配したものは，洗練された人間的な優雅さであり，それゆえロココの衣装は一つの芸術にまで高められた。その様式的基調は大別二つになる。一つは，ゆるやかなひだづけを特徴としたローブ・ヴォラント（いわゆるネグリジェ・スタイル），他の一つはパニエ（いわゆるフープ）である。そして，この主調はルイ16世の時代になっても失われてはいない。しかし，私たちはその終焉の姿をこの期の入念にして巨大な婦人の髪型の中に認めることができる。つまり，本書に描かれた婦人の姿態のすべてが，この髪風中心に展開され，あたかもロココの残照の輝きとなっている。ポロネーズ，シルカシエンヌといった一連のバスル・スタイルは到来する新時代の予告であり，ルダンゴトやア・ラングレーズなどと共に英国風の自然主義の反映なのであった。他方，フランス型ローブの伝統も強く盛装に残っていたことは，本書の図版によっても明らかである。

Colasの書誌には，元版の全目次が，タイトル，原画者，刻版者，図版番号，カイエ（帳）番号と共に記されており，その全容をとらえることができる。一方，この翻刻版にも元版の図版番号との対照表と索引が付されている。これによると，元版の図版は総数408となっている。また元版の初めの36枚は1774年から1776年までのヘア・モードに当てられているが，これは翻刻版では省かれており，1780年代初期の図版についても同じことが指摘できる。

本館所蔵の第Ⅰ巻には1776年から1779年までのNO. 1—80まで21帳分80枚，第Ⅱ巻には1779年から1781年までのNO. 81—160まで16帳分80枚，第Ⅲ巻には1781年から1786年までのNO. 161—240まで21帳分80枚，そして第Ⅳ巻には1786年から1787年までのNO. 241—325まで14帳分84枚，合計324枚が収められている。（石山）